

日銀の視点

大阪・関西万博が開幕した。一連の報道を見る中で、1985年に開催されたつくば科学万博のことが気になっていた。4月中旬の晴天の週末、石岡市のいばらきフラワerparkなどを経由し、つくば市内の万博にゆかりのある場所を巡ってみた。

科学とは縁遠い分野を歩んできたが、当時は平凡な中学生として、友人と一緒に万博を訪れ、驚きと楽しさの連続だった記憶がある。また、その16年後、21世紀の最初の日

日銀水戸事務所長

稲見 征史

には会場のポストカプセルに投函した中学生の自分からの手紙が届き、当時の思い出がよみがえったことも懐かしい。

万博はイベントである以上、収支や会場の出来栄なども大事ではあるが、本質は

を見ながら、そうした感慨にふけた。

市内のつくばエキスポセンターを訪れて意外だったのは、体験型の施設で遊んだり、興味深げに展示を見入るなど、今でも大勢の子どもたちが来場し、とてもにぎわって

つくば万博のレガシー

それ以外にもあろう。そう、少子高齢化社会が到来する中で、何よりも、次の時代を担う若い世代が、夢や希望を持つきっかけになればよい。会場跡地の科学万博記念公園を散策し、「科学の門」のニュートンらの顔に照り返す夕陽

いたことだ。当日は、南極の昭和基地と生中継し、隊員に質問ができるといった特別企画も開催されていた。科学を総合的に学べる施設として、最新の技術動向も踏まえながら、運営面の工夫が続けられている印象だ。

日本人の海外渡航者数は、新型コロナウイルス禍前より落ち込んだ状況にある。国内

にいながら、世界の文化や先端技術を目にできる点で、今回の大阪・関西万博に多くの若い世代が優先的に訪れることを願いたいし、そうした機会

会の提供や雰囲気
の醸成が大人の
たちの使命でも

あろう。そして、そこから感
化され、将来、本県や日本を
支える人材が芽生えてくると
よい。

また、大阪へ行くことがかなわ
ない場合でも、より身近な
つくば市を訪れば、エキ
スポセンター以外にも科学関

係の見学施設が充実しており、いつでも学べる場があるのはありがたい。40年前の万博がレガシーとして後世に残した貴重な資産・文化が色あせていないことを実感する機会となった。

なお、今回の行程でフラワerparkに立ち寄った理由は、つくば万博の開幕と同時に観光客の誘致を狙って開園したとの記載を見たのがきっかけだ。同じく40周年。園内は春満開で山頂の八重桜なども咲き、絶好の季節。近年園内を改装しカフェやショップなども充実、筑波山を望める立地で、本県の観光施設としてぜひ紹介したい場所である。